

# 日野郡農林業の概要



平成31年3月

鳥取県西部総合事務所  
日野振興センター日野振興局

表紙写真：

水稻（江府町H24.9.5撮影）と「日野郡の米」ロゴマーク（H23年日野郡産米レベルアップ推進協議会製作）

## 目次

	ページ
1 農業マップ .....	1
2 林業マップ .....	3
3 農業の現状と取組	
(1) 農業の就業構造 .....	5
(2) 担い手の状況 .....	6
(3) 土地利用の状況 .....	8
(4) 農業基盤の整備状況 .....	8
(5) 主な農畜産物の生産販売と取り組み .....	9
(6) 環境に優しい農業の取り組み状況 .....	12
(7) 鳥獣被害と対策 .....	13
4 森林・林業の現状と取組	
(1) 日野郡の森林の現状 .....	14
(2) 間伐の推進 .....	15
(3) 木材価格の推移 .....	16
(4) 地域材の供給 .....	16
(5) 森林路網の整備 .....	17
(6) しいたけの生産 .....	18
5 日野振興センター農林関係担当課 .....	19

## はじめに

日野郡は鳥取県の南西部に位置し、日南町、日野町、江府町の3町から成っており、標高約200～600m付近で農林業が営まれる中山間地帯である。大正時代まで「たたら製鉄」が存在し、製鉄業に携わる人々によって、農業や林業が支えられてきた地域もあり、「鉄穴（かんな）流し」のあとが水田や水路として残されたものも多い。また、日野郡の農地・水路は道路敷、河川敷、鉄道敷とも隣接しており、その保全は、これらインフラの維持管理に大きく貢献していることも忘れてはならない。

大山山麓に広がる丘陵地と谷あいの農地では、日当たりのよさと豊富な水を利用して、古くから良質米が栽培されており、消費者の評価も高い。とりわけ、旧郡域の「日野川源流米コンテスト」や「日野特別栽培米研究会」、江府町における「奥大山プレミアム特別栽培米研究会」、日野町や日南町での海藻肥料を使った米づくりをはじめ、農家の創意工夫を凝らした取組が展開されている。

平成26年産の米価下落を機に担い手への農地集積が加速、経営基盤の強化を図るため、集落営農の組織化や個人経営の法人化が進行した。平成28年2月には郡内の法人等を中心に、日野郡中山間営農ネットワーク協議会(会員数20 H31.3 現在)が設立され、連携と経営強化の取り組みも始まっている。また、平成24年から人農地の課題解決に向けて、集落等を中心とした「人・農地プラン」の取り組みが始まり、法人化や集落内の農地集積のほか、日南町阿毘縁、印賀、白谷では基盤整備事業の実施にむけた話し合いも進められている。

高齢化に伴い、白ねぎ、ピーマン、ブロッコリーなどの園芸品目は減少傾向にあったが、がんばる地域プラン事業による取組などによって、トマトやピーマンの栽培面積は減少に歯止めがかかりつつある。

新規就農者は、日南町において平成21年度に町農林業公社(現：一般財団法人日南町産業振興センター)により研修体制が整備されたことをきっかけに、Iターンによる就農が増加した。現在では、日南トマト生産部員の1/4を新規就農者が占め、平成30年には販売額2億円突破の起爆剤にもなった。

森林に目を向けると林野率が88%で、管内の林野面積は県下の20%を占めている。スギ、ヒノキは7～12齢級に集中しており、間伐などの保育活動を推進し、資源を有効に活用していくことが課題である。また、現場で即戦力となる林業技術者を育てることを目的に、平成31年4月に日南町立「にちなん中国山地林業アカデミー」が開校し、県内外から熱い視線が注がれている。平成20年に創業を始めた(株)オロチでLVL製造が開始されたことにより、郡産木材が高次加工される体制が整い、地元での雇用も創出されている。森林資源はバイオエネルギーとして注目されており、郡内の農林家数戸が農業用園芸ハウスでの熱源として薪ストーブを導入し、トマト、軟弱野菜やシイタケに活用されている。

日野郡では、農地等を獣害から守る侵入防止柵の設置を平成21年度から本格的に進めている。獣害のほとんどを占めるイノシシ捕獲頭数が増加、また、平成25年からはシカの捕獲頭数も急増している。こうした中、日野郡では3町と県が連携して、平成25年度に「日野郡鳥獣被害対策協議会」が発足、同26年度には鳥獣被害対策実施隊が結成された。守るべき農地の峻別と鳥獣被害防止柵の設置は両輪であり、人・農地の話し合いの支援と並行して鳥獣被害の拡大を食い止めるべく精力的に活動している。本実施隊は、地域おこし協力隊などが中心となって組織されており、活動の充実と人材の定着に向けた取り組みも進められている。

日野郡の農林業を取り巻く情勢は、高齢化や人口減少の波をいち早く受け、厳しい状況であることは変わらない。しかし、地域の特色を活かした農林業が展開されており、中山間地域のモデルとして注目されている。

# 1 農業マップ



**【夏秋トマト】**  
 冷涼な気候を活かした美味しいトマトが生産されている。鳥取県型低コストハウスの有効利用、販売対策等を積極的に行っている。  
 平成27年には、「日南トマト」の地域団体商標が登録された。  
 新たに平成23年5名、平成24年1名、平成26年1名、平成27年2名、平成29年2名、平成30年2名の農業研修生が、研修を終えて栽培に参入している。(日南町)



**【日野郡の米】**  
 日野川の清流とお米づくりに適した気候を利用して、日野郡全体でおいしいお米を生産している。特別栽培などの取組が盛んで、各地のお米コンテストの受賞や都市部で一定の評価を得るなど、生産者の活動は活発である。  
 (日野郡全域)



**【直売所から始まる地域活動】**  
 学校給食への農産物供給など、地産地消活動の拠点となっている。  
 (江府町 みちくさ館)



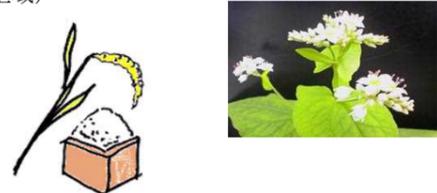
**【奥大山ブルーベリーファーム】**  
 西日本でも最大規模の観光農園として知られ、6次産業化(農業者が加工品の関係・販売等をする)も進めている。(江府町 笠良原地区)



**【ブロッコリー】**  
 県内西部産地のリレー出荷の中で冷涼な気候を活かし、比較的高温期の出荷が期待されている。



**【農家レストラン】**  
 アンテナショップおよび地域コミュニティの拠り所を目指している。  
 (日南町 ホームランド多里、アメダス茶屋)



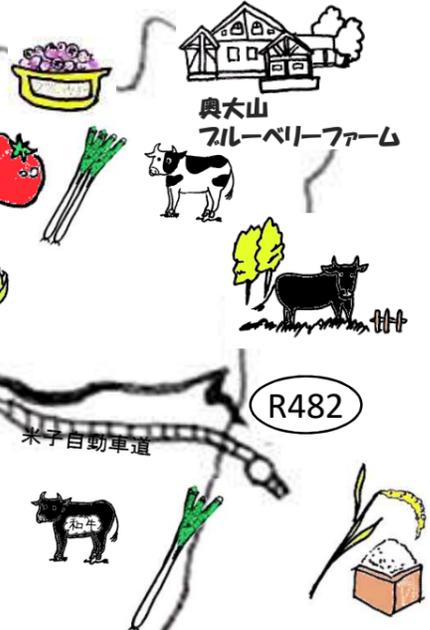
**【そば】**  
 郡内各地でそばの栽培が盛んに行われ、土地利用型作物として重要な位置づけとなっている。  
 (日野郡全域)



**【夏秋ピーマン】**  
 冷涼な気候を活かし、夏秋ピーマンの栽培が行われている。



**【日南高原朝どれ野菜生産部】**  
 少量多品目の新鮮な野菜や山菜を持ち寄り、岡山県方面のスーパーマーケットに直送している。



**【白ネギ】**  
 冷涼な気候を活かした夏ネギ栽培がさかんである。  
 栽培経験の浅い生産者を対象に栽培基礎講座を開催している。



**【地域産物を活用した加工品開発】**  
 農産物の資源や伝統を活かした加工品づくりが盛んである。

加工の目玉は鈴原糯(すずはらもち)。栽培しにくい品種だがモチ質は抜群！  
 (日野町 大夢多夢)



地域特産品のトマトを使ったトマトジュースは、定評あり！(日南町)



**【和牛放牧場】**  
 5月～10月にかけて和牛の放牧により、和牛農家の手間が減り、牛の健康も増進されている。  
 年間を通して、高能力な和子牛をせり市場へ上場している。

## 2 林業マップ



【日野川の森林(もり)木材団地】  
日野川流域の総合木材流通加工拠点。(株)オロチ、(株)米子木材市場、山陰丸和林業(株)が進出。  
(日南町下石見)



【日野川流域材の活用】  
地元のスギを使用したLVL(単板積層材)製造工場が完成。H20.4から操業開始した。  
(日南町下石見 (株)オロチ)



【森林環境保全税の活用】  
放置され手入れができていない森林を強度間伐し、公益的機能の回復を行っている。  
(日野町下菅)



【とっとり共生の森】  
○天然水の森 奥大山(江府町)  
…サントリー(株)  
○とっとり日通の森(日南町)  
…日本通運(株)  
県・市町村が企業と地元の架け橋となってきた共生の森において、森林の保全活動、体験学習を行っている。  
(江府町御机 サントリー(株))



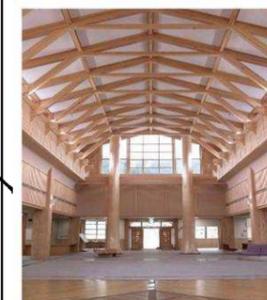
【路網ネットワークを形成する幹線となる林道の整備】  
とっとり森と緑の産業ビジョンによる持続可能な森林経営の確立と、適正な森林整備の推進により森林の多面的機能の高度発揮を図るため、森林整備を効率的に行う上で不可欠な、林内路網の幹線である林道の整備を行っています。  
(林道窓山線:日南町上萩山(左)整備状況、日南町新屋(右)利用状況)



【にちなん中国山地林業アカデミー】  
現場で即戦力となる林業技術者の育成を目的にH31年4月に開校。  
(日南町多里)



【低コスト林業モデル団地】  
施業の団地化、路網の高密度化と崩れにくい作業道を組み合わせ、伐採搬出コストを削減するためのモデル的取り組みを行っている。  
(日南町下石見)



【日南町庁舎・日南小学校】  
地域で生産・加工された木材を使用した木造公共施設。地域材利用のシンボル。  
日南小学校には(株)オロチのLVL使用。  
(日南町霞)



【林業専用道の整備】  
林道までの木材運搬は林内作業車や2トン程度のトラックで行われていましたが、大型トラックが通行できる林業専用道を整備することで大幅な時間短縮とコストの削減に繋がっています。(日南町上萩山)



【鳥取式作業道の推進】  
災害に強く、長期間の使用に耐えるように、転圧等丁寧な施工と、早期緑化を行うための表土ブロックを施工する作業道の作設を推進している。

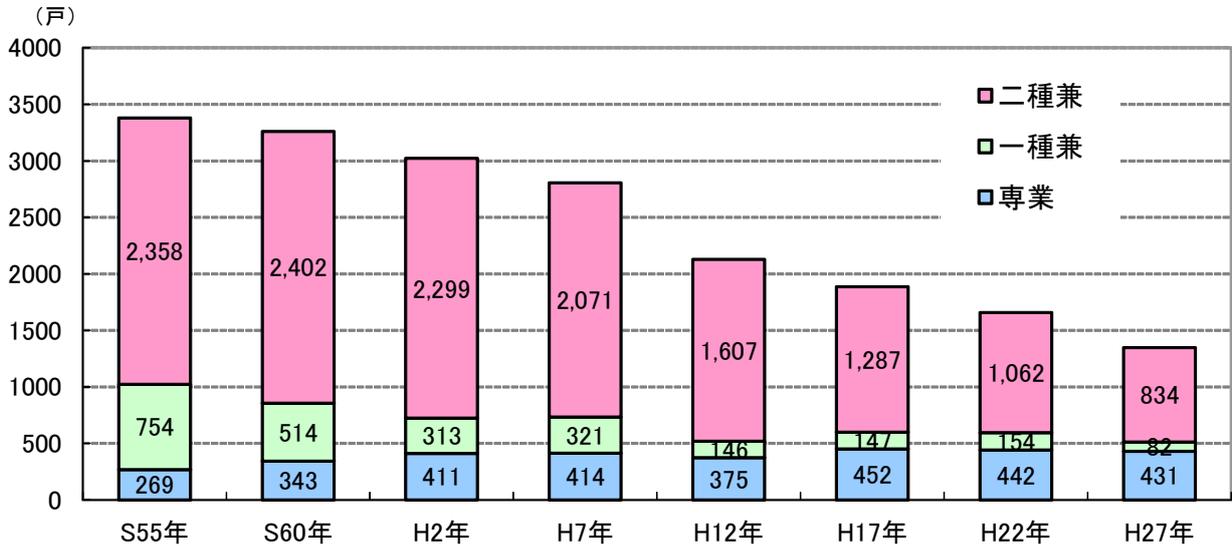


### 3 農業の現状と取組

#### (1) 農業の就業構造

○農家戸数は年々大きく減少しており、ここ20年で半減している。

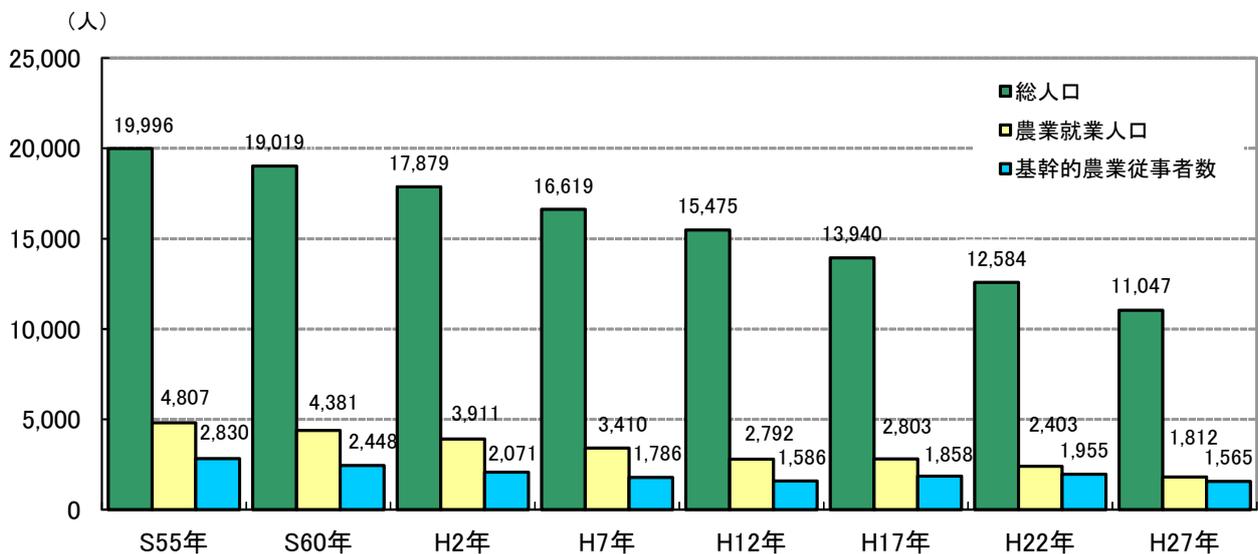
#### 日野郡専業兼業別農家戸数の推移



出展：農林業センサス（2015）

#### 《参考》

#### 日野郡の総人口、農業就業人口、基幹的農業従事者数の推移



出展：農林業センサス（2015）及び鳥取県勢要覧

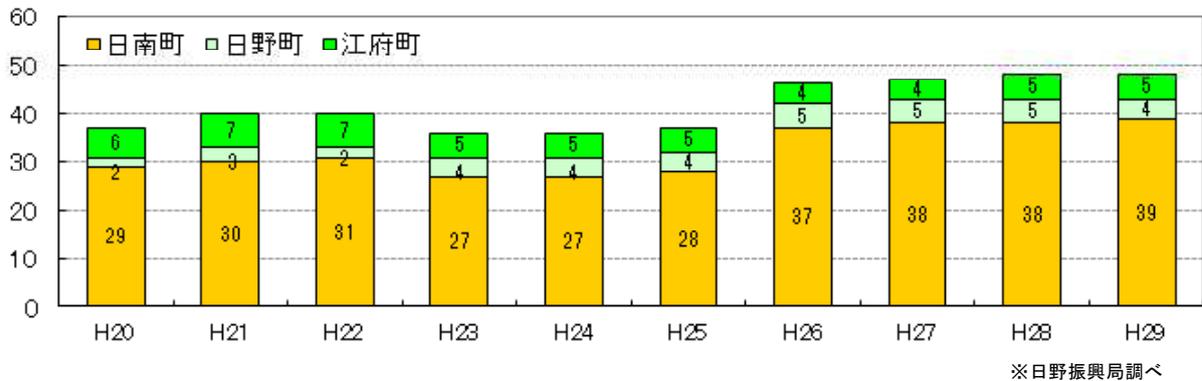
注1）農業就業人口とは、自営農業従事者のうち、農業が主である者（兼業で農業が主である者も含む）をいう

注2）基幹的農業従事者数とは、農業就業人口のうち、ふだん仕事として農業に従事している者をいう

## (2)担い手の状況

### 認定農業者数の推移

○認定農業者数は、高齢化等による再認定見送りと新規認定の差が小さく、ここ数年は横ばいである。



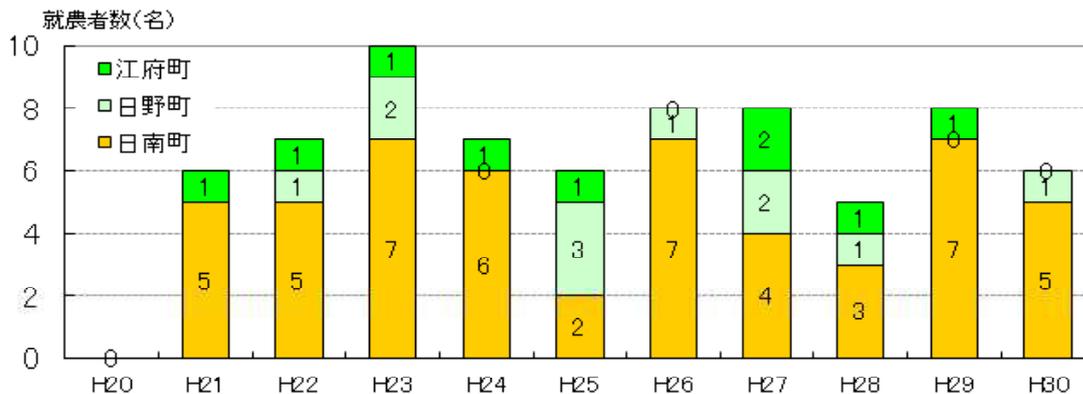
○郡内の組織経営体数は少ないが、近年は高齢化による労力不足対策として法人化の動きが進んでいる。

### 農業経営体数

区分	農業経営体数	うち法人数	
		集落営農法人数	
日南町	711	20	10
日野町	260	3	2
江府町	424	3	2

出展：農林業センサス（2015）及び日野振興局調べ

### 新規就農者数の推移



※日野振興局取りまとめ  
※各年の1月1日から12月31日の間に就農した者が対象

○平成30年新規就農者数は日南町が5名（うち法人等就農者3名）、日野町1名、江府町0名の計6名。

○平成29年新規就農者数は日南町が7名（うち法人等就業者6名）、日野町0名、江府町1名（うち法人就農者1名）の計8名。

○近年新規就農者（独立、雇用）は日南町に多い傾向。独立就農では夏秋トマトが中心であり、ほかに白ねぎがある。

#### 【参考】

○日南町においては、平成21年度から地域振興公社（平成25年4月1日から「一般財団法人エナジーにちなん」へ解散再設立）が主体となり2年間の農業研修制度を開始。

平成21年度：8名研修 ⇒うち7名が平成23年度から就農。

平成22年度：4名研修 ⇒うち1名が平成24年度から就農。

平成23年度：1名研修

平成24年度：3名研修 ⇒うち1名が平成26年度から就農。

平成25年度：3名研修 ⇒うち2名が平成27年度から就農。

平成26年度：3名研修

平成27年度：4名研修 ⇒うち1名が平成29年度から就農。

平成28年度：3名研修 ⇒うち1名が平成29年度から就農。

平成29年度：3名研修 ⇒うち2名が平成30年度から就農。

平成30年度：3名研修 ⇒うち1名が平成31年度から就農予定。

## 人・農地プラン

- 各町では、人農地問題解決推進チームを設置（メンバー：町・農業委員会・JA・機構・普及所・農業振興室等）し、1～2か月に1回程度、定期的な打ち合わせを行っている。担い手の規模拡大や縮小に伴う農地調整、集落や町域を超えた参入にかかる集落の合意形成、基盤整備の取り組み等、地域の実情に応じて話し合いのテーマは多岐にわたる。

### 「人・農地プラン」作成状況

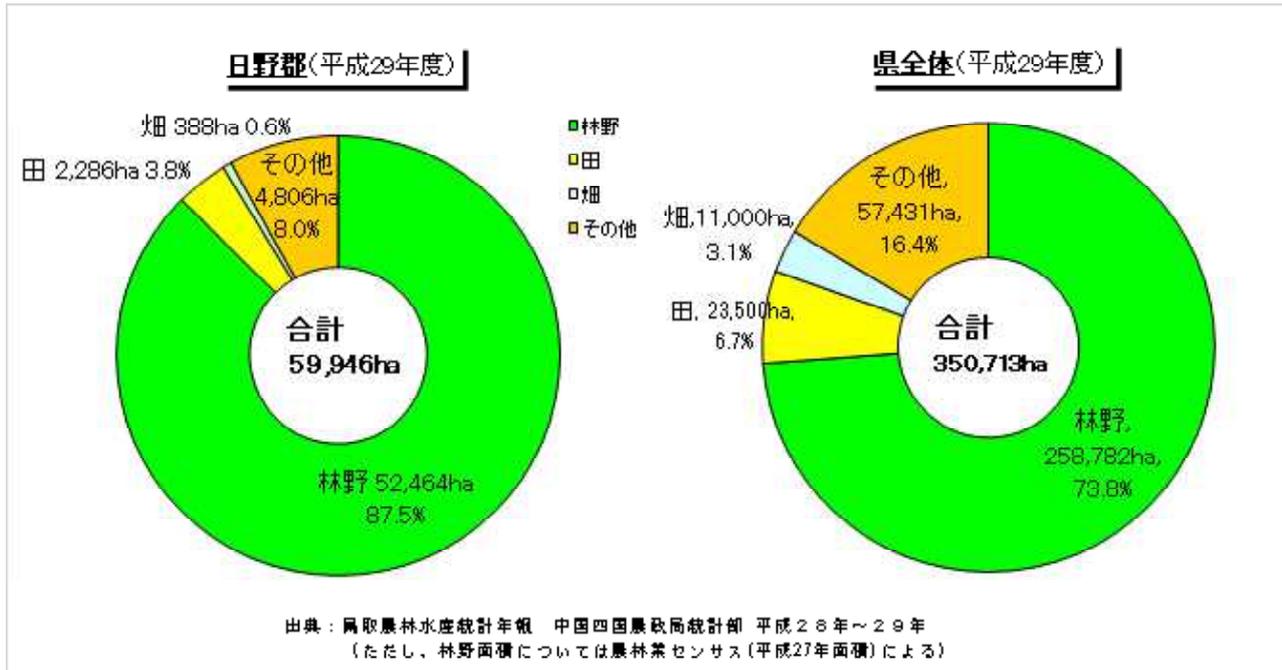
町名	プラン地域名	プラン数	中心となる経営体数
日南町	大宮地区、阿毘縁地区、山上地区、多里地区、日南地区	5	106 (うち法人20)
日野町	根雨地区、黒坂地区	2	17 (うち法人4)
江府町	江府町	1	4 (うち法人2)

※中心となる経営体：農地の受け手となる経営体。規模の大小は問わず、地域合意によりプランに位置づけられる。



### (3)土地利用の状況

○林野率は87.5%と、県の73.8%に比べて高い。

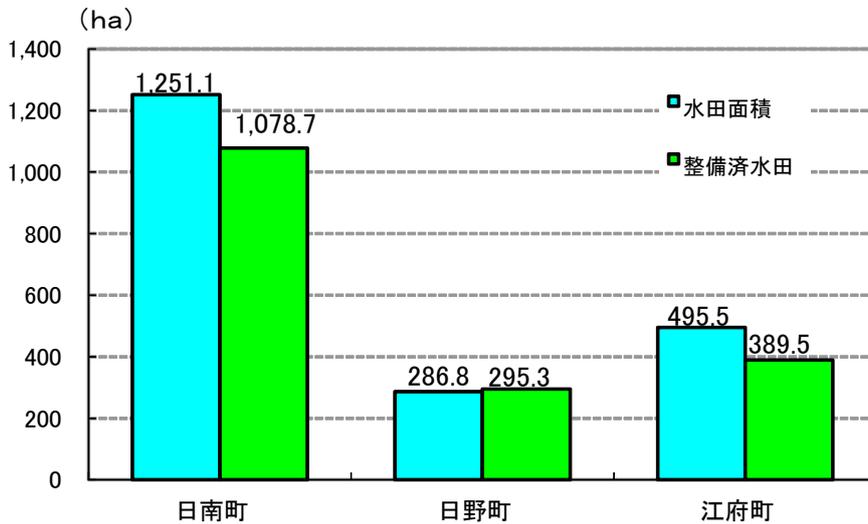


### (4)農業基盤の整備状況

○日野郡内の農振農用地内整備済水田面積は1,763haで、整備率は86%となっている(県平均85%)。

○整備済水田面積は昨年とほぼ同じであり、水田整備率もほぼ横ばいである。

#### 農振農用地の水田面積と基盤整備状況(平成28年度)



出典：平成28年ほ場整備率調査(農地・水保全課調べ)

※平成29年調査は集計中のため、平成28年調査値を掲載

## (5)主な農畜産物の生産販売と取り組み

### ① 水稲

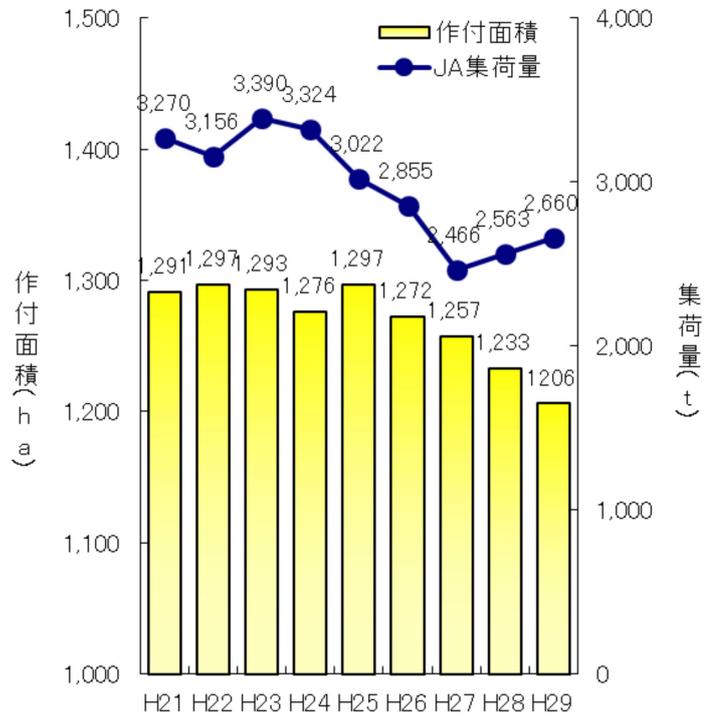
#### 【栽培面積・集荷量】

○日野郡の水稲作付面積は、約1,300ha～1,200haであり、年々減少している。JAへの出荷量は、生産者による実需者への直接販売の取り組みの拡大等を背景として、減少傾向となっていたが、近年は若干の増加が見られる。

#### 【生育状況・作況】

○平成29年産は、作柄が良かった前年産に比べると、10a当たりの収量は若干減少したものの、田植期以降の天候が良好であり、穂数の確保が出来たことから、県西部地区の作況指数（平年作100）は101となった（鳥取県101、全国100）。

#### 水稲の作付面積とJA集荷量の推移

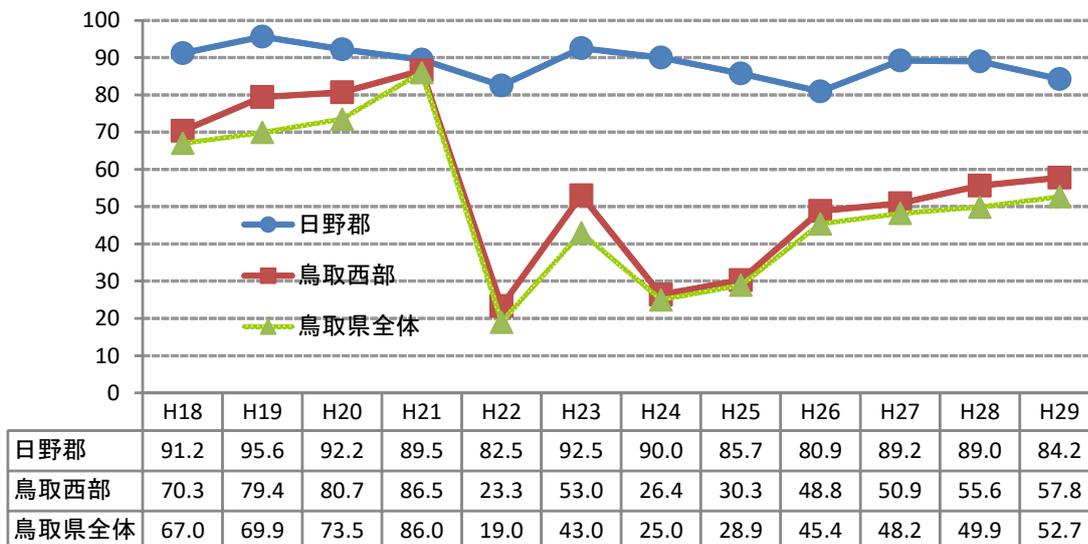


出典：集荷量は平成30年度日野郡産米改良協会資料、作付面積は鳥取県農業再生協議会総会（平成29年12月）資料

#### 【1等米比率】

○平成29年産の1等米比率は、高温登熟により県全体の品質が低迷するなか、日南町85.1%、日野町89.5%、江府町80.7%と高い水準を維持している（県平均52.7%）。

#### 一等米比率の推移(うるち米) (%)

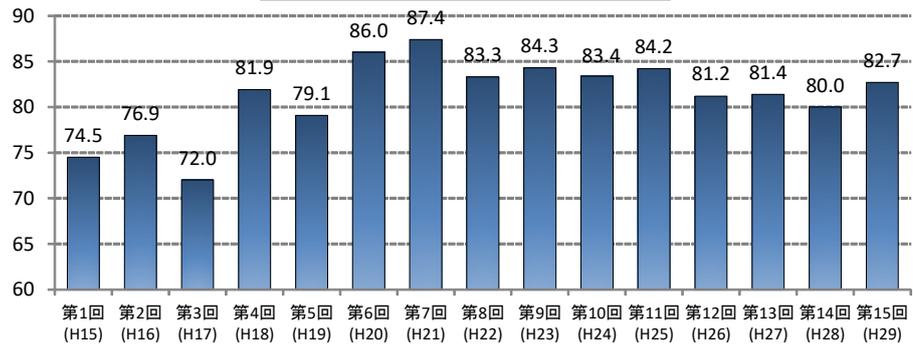


出展：農林水産省米穀の農産物検査結果（平成30年10月31日現在確定値）及び平成30年度日野郡産米改良協会資料

**【食味値向上の取り組み】**

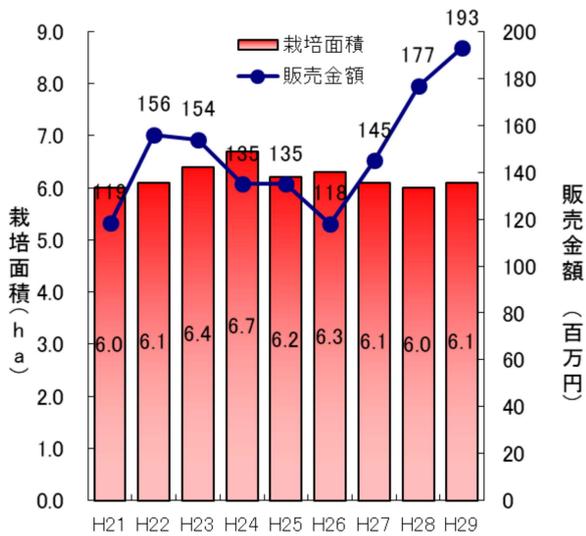
- 日野郡の特徴である「おいしいお米」をさらにレベルアップさせるため、平成15年から日野川源流米コンテストを開催。
- 平成20年以降は良食味米の生産技術が定着してきており、コンテストにおける平均食味値は、おいしいとされる80以上である。

**日野川源流米コンテスト平均食味値**



※日野振興局調べ

**トマトの栽培面積と販売額の推移**



出典：JA鳥取西部資料（平成30年度）

**② トマト**

**【栽培面積・販売額】**

- 平成29年度の栽培面積は、日南町5.6ha、江府町0.5haである。高齢化に伴う規模縮小の影響はあるものの、平成23年度以降、新規就農者の参入によって、栽培面積を維持している。
- 平成27年から日南町で新品种「りんか409」の導入が進み、収量・販売金額が大きく向上している。

**【産地の取り組み】**

- 日南町では、平成23年度に選果場が再整備（色彩選別機導入）された。
- また、平成26年度には日南町が「旨い果菜の里づくりプラン」を策定し、産地の維持・振興に取り組んでいる。

**③ 白ねぎ**

**【栽培面積・販売額】**

- 平成29年度の栽培面積は、日南町6.1ha、日野町1.5ha、江府町3.2haである。
- 販売額は、高齢化による栽培面積の減少の影響、病害の発生等により、平成23年度以降、減少している。

**【産地の取り組み】**

- 平成24年度、JA鳥取西部中心に白ねぎを振興するプラン「二大特産野菜の産地力増強プラン」が作成され、平成29年度までの5年間、生産者の確保や栽培面積拡大に取り組まれた。

**白ねぎの栽培面積と販売額の推移**

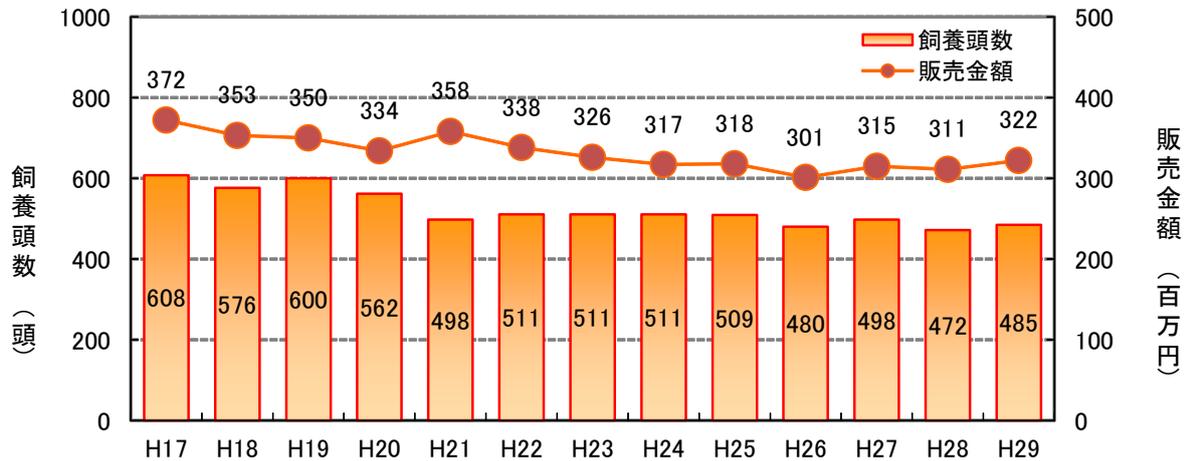


出典：JA鳥取西部資料（平成30年度）

#### ④ 乳用牛（牛乳）

- 生乳は、平成17年から全国的に生産過剰基調となり、平成18年、19年と生乳の減産となる生産調整が実施され、日野郡内の飼養頭数は減少した。平成20年に入って生産調整は解除されたが、現在も回復には至っていない。
- 日野郡内には、100頭規模の大型農家が3戸あり、いずれも経営者は地域の中核的存在として健闘中である。

### 乳用牛（牛乳）の年次推移

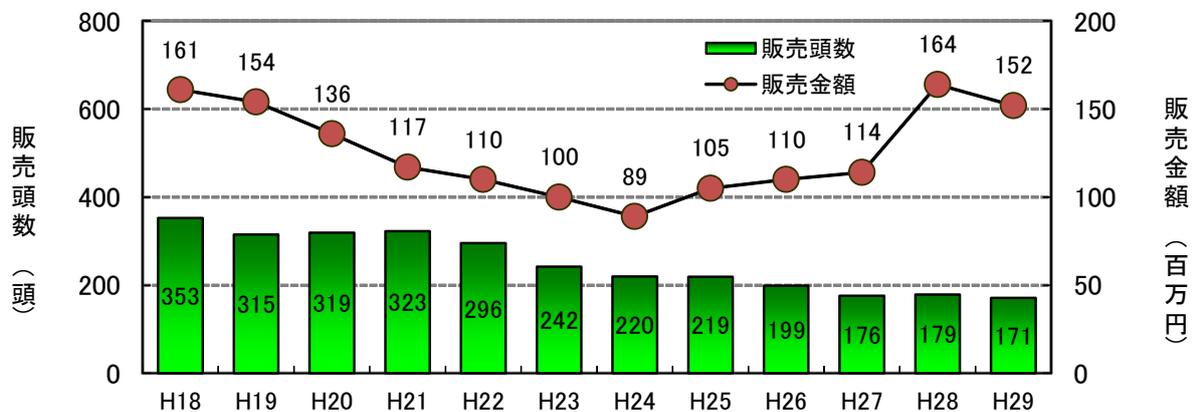


※大山乳業聞き取り

#### ⑤ 和牛子牛

- 日野郡内では、平成13年から取り組んだ優良雌牛導入事業の成果により牛群改良が進み、さらに平成19年に全国和牛能力共進会が県内で開催された影響もあって、子牛の販売単価は高値で推移。
- その後、景気の後退を反映して販売単価が低下した時期もあったが、宮崎県の口蹄疫、東日本大震災の影響による全国的な素牛不足から、平成22年以降は、引き続き、高値での取引が続いている。
- 日野郡内の肉用牛経営は、和牛繁殖が主体であり、高齢化によって子牛の販売頭数が年々減少しているが、「白鵬85の3」、「百合白清2」という全国に誇れる県有種雄牛の誕生により、本県の子牛の価格は高騰しており、日本有数の高値での取引となっている。

### 和牛子牛の年次推移



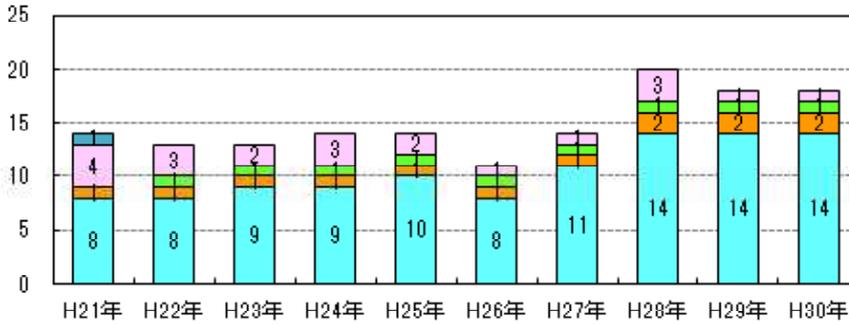
※JA鳥取西部聞き取り

## (6) 環境に優しい農業の取り組み状況

### ① 特別栽培農産物登録

- 鳥取県特別栽培農産物登録件数は平成28年に増加した以降、横ばいで推移している。
- 品目別面積は水稲、ソバの順に多い。合計栽培面積は、近年微増傾向にある。

#### 特別栽培登録件数

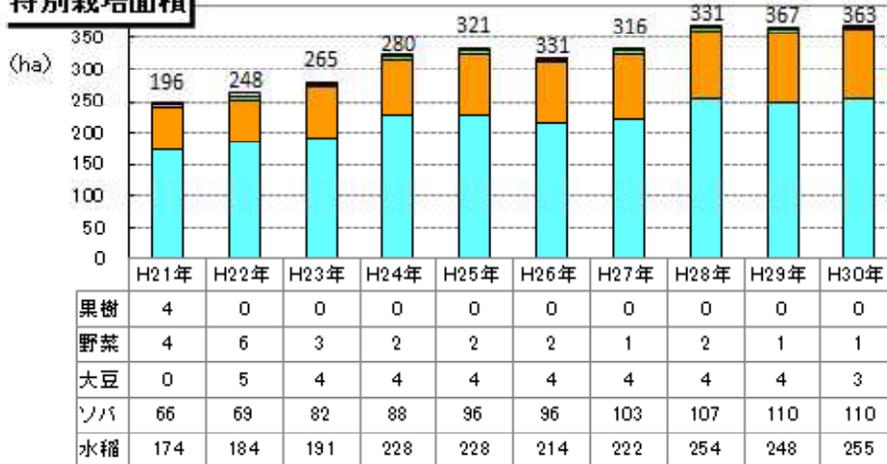


注1) 特別栽培農産物とは、農林水産省が定めた「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に従って生産された、化学合成農薬及び化学肥料の窒素成分を慣行レベルの5割以上削減して生産した農産物をいう。

※平成31年2月末日野振興局調べ

#### 特別栽培面積

(棒グラフ上の数値は、合計面積)

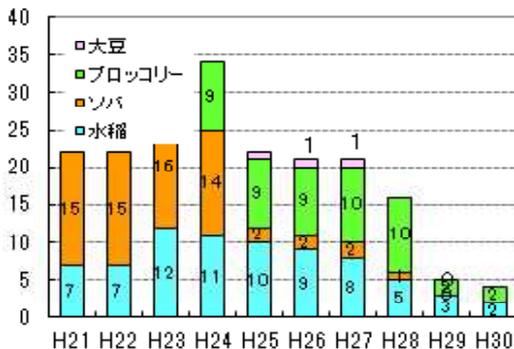


※平成31年2月末日野振興局調べ

### ② 持続性の高い農業生産方式に関する計画

- 平成24年をピークに徐々に減少している。

#### エコファーマー認定数

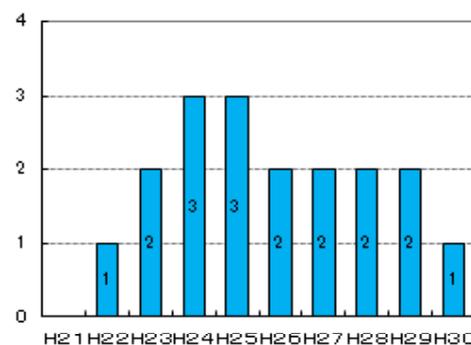


※日野振興局調べ(12月末延べ数)

### ③ 有機JAS認定

- 平成30年の認定状況は1名となっている。

#### 有機JAS認定数



※日野振興局調べ(12月末調べ)

注) エコファーマーとは、持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律施行規則(平成11年農林水産省令第69号)に基づき、計画認定を受けた農業者をいう。

## (7) 鳥獣被害と対策

### ①被害額

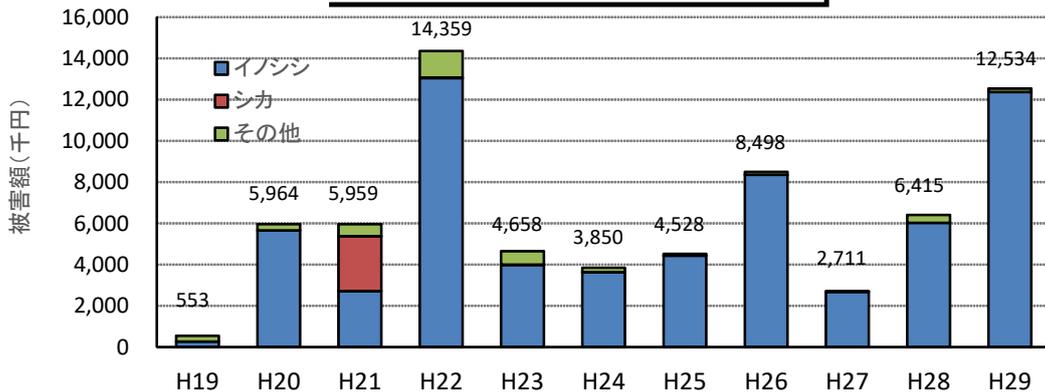
- 日野郡内の野生鳥獣による農林業被害は、イノシシによる被害（水稲の踏み倒し、食害等）が大半を占めている。
- 被害額は平成22年度に14百万円と最大になり、以降は2百万円から9百万円の間で推移していたが、平成29年度は侵入防止柵が未整備の地域を中心に被害が発生し、過去11年間で2番目に高い被害額となった。

(単位:千円)

年度	H27	H28	H29
イノシシ	2,680	6,026	12,377
シカ	0	0	0
カラス	0	0	0
サギ	0	0	0
サル	18	42	68
その他	13	347	89

※日野振興局調査

### 野生鳥獣による農林業被害額の推移



※日野振興局調査

### ②有害捕獲許可による捕獲数

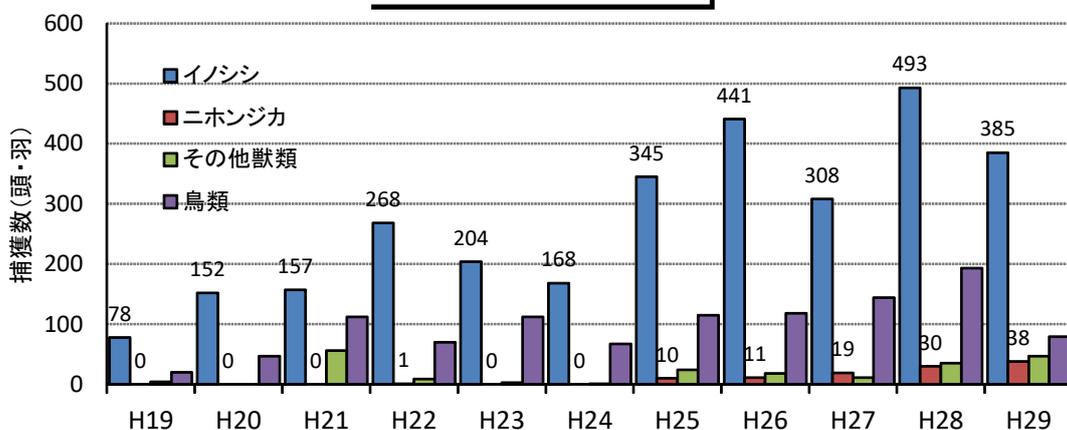
- イノシシの捕獲頭数は、平成19年度以降、増加傾向にあり、近年は300頭～500頭で推移している。
- ニホンジカの捕獲頭数は、平成25年度以降、年々増加し続けており、平成29年度における捕獲頭数は過去最多の38頭となった。
- その他の獣種としては、アナグマ、タヌキの捕獲頭数が年々増加している。

(単位:頭、羽)

年度	H27	H28	H29
イノシシ	308	493	385
ニホンジカ	19	30	38
その他獣類	ヌートリア	2	2
	アナグマ	5	20
	タヌキ	4	13
鳥類	カラス	91	158
	サギ	30	14
	カワウ	23	21

※日野振興局調査

### 有害鳥獣捕獲数の推移



注) ヌートリアの捕獲は、ヌートリア・アライグマ防除実施計画による捕獲

※日野振興局調査

## 4 森林・林業の現状と取組

### (1)日野郡の森林の現状

○日野郡の林野面積は52,813haと総面積の88%を占めている。

○民有林のうちスギ・ヒノキ等の人工林は31,114haで、人工林率は62%である。

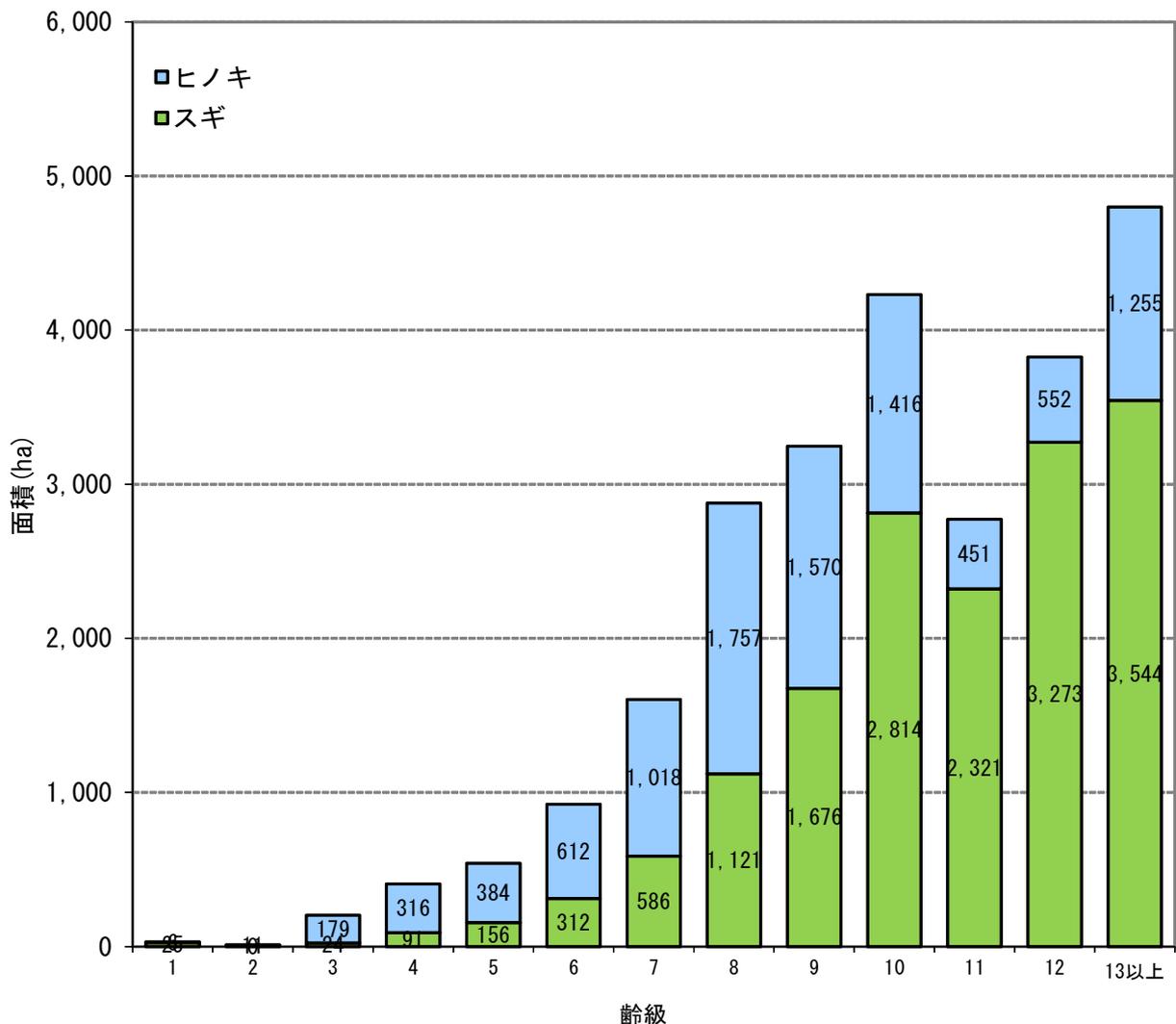
○スギ・ヒノキの人工林資源は7から12歳級程度のものが多く分布しており利用間伐が進んでいるが、今後とも資源の有効活用が求められている。

区分	土地面積	林野面積				民有林内訳			
		国有林	民有林	計	林野率	人工林	天然林	その他	人工林率
日南町	34,096	1,311	29,150	30,461	89%	18,312	10,544	295	63%
日野町	13,398	375	11,662	12,037	90%	8,028	3,429	205	69%
江府町	12,452	1,026	9,289	10,315	83%	4,774	4,265	251	51%
局計	59,946	2,712	50,101	52,813	88%	31,114	18,238	751	62%
全県	350,705	31,340	227,204	258,614	74%	124,026	96,333	7,255	54%

単位：ha、%

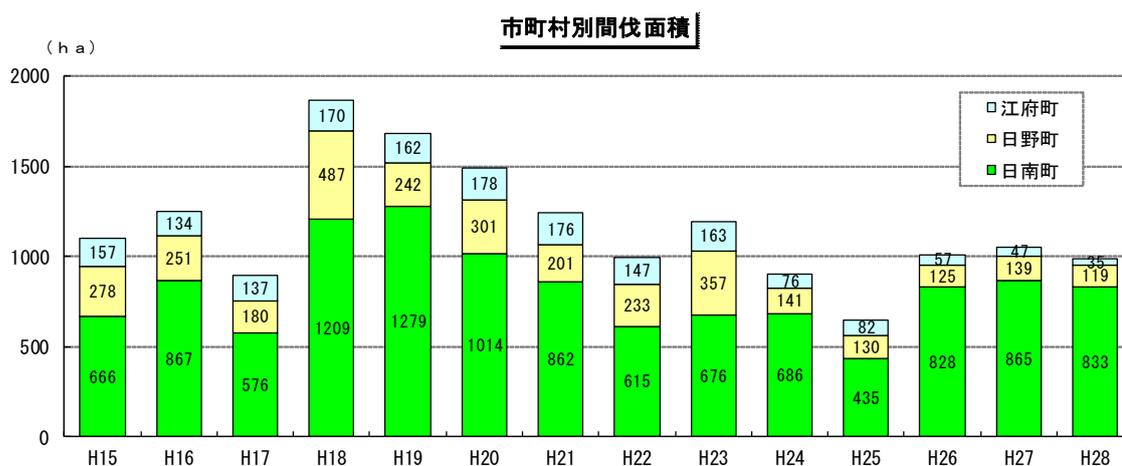
※出典：平成29年度鳥取県林業統計

### 日野郡内のスギ・ヒノキ別年齢構成（面積）



## (2)間伐の推進

- 森林の適正な管理を確保するため、間伐の推進に取り組んでいる。
- 間伐材の有効活用を推進するため、平成13年度から「間伐材搬出促進事業」(単県)、平成25年度からは「間伐材搬出等事業」を実施し、間伐材の市場への運搬・出荷経費に補助してきた。日野郡では、対前年比139%となる約7万m<sup>3</sup>の間伐材が搬出された平成23年度を契機として、その後は概ね同程度の間伐材が搬出されている。
- 「低コスト林業機械リース等支援事業」(国庫・単県)等を実施して搬出用機械の導入を支援し、搬出コストの低減を図っている。



※出典：平成28年度鳥取県林業統計

## 間伐材搬出等事業の実績

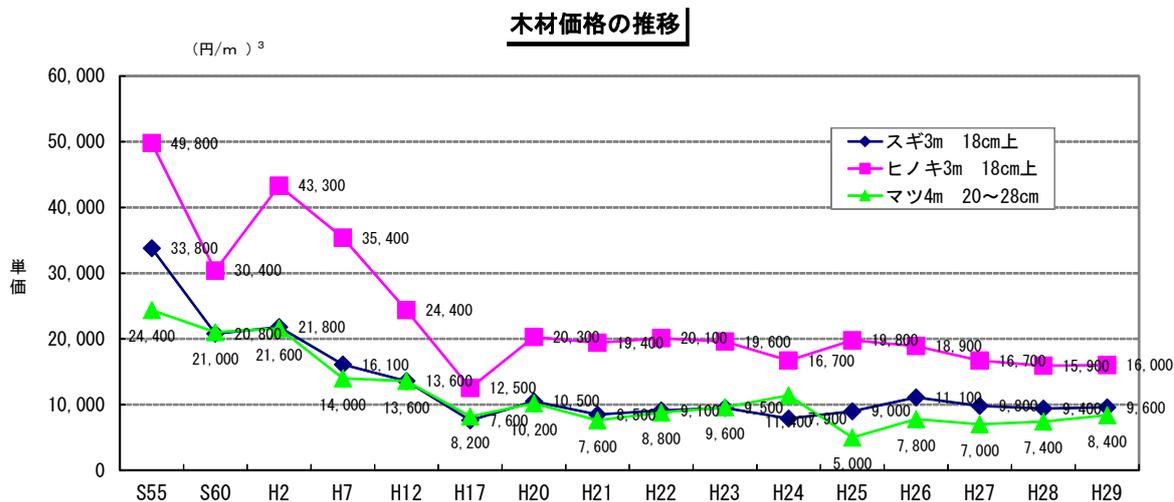
		H17	H19	H21	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
日野郡	材積(m <sup>3</sup> )	19,101	25,489	43,383	70,890	63,862	64,637	65,102	72,099	73,858	72,347
	金額(千円)	82,136	101,956	169,192	269,383	242,676	228,724	209,409	216,296	221,569	202,572
	県内シェア(材積%)	63	60	50	46	46	41	34	33	34	33
全県	材積(m <sup>3</sup> )	30,485	42,226	86,600	154,120	139,186	159,068	192,162	215,698	215,045	221,576
	金額(千円)	131,086	168,905	337,739	585,653	528,734	561,573	616,972	647,094	645,122	620,231

※出典：日野振興局業務資料



### (3)木材価格の推移

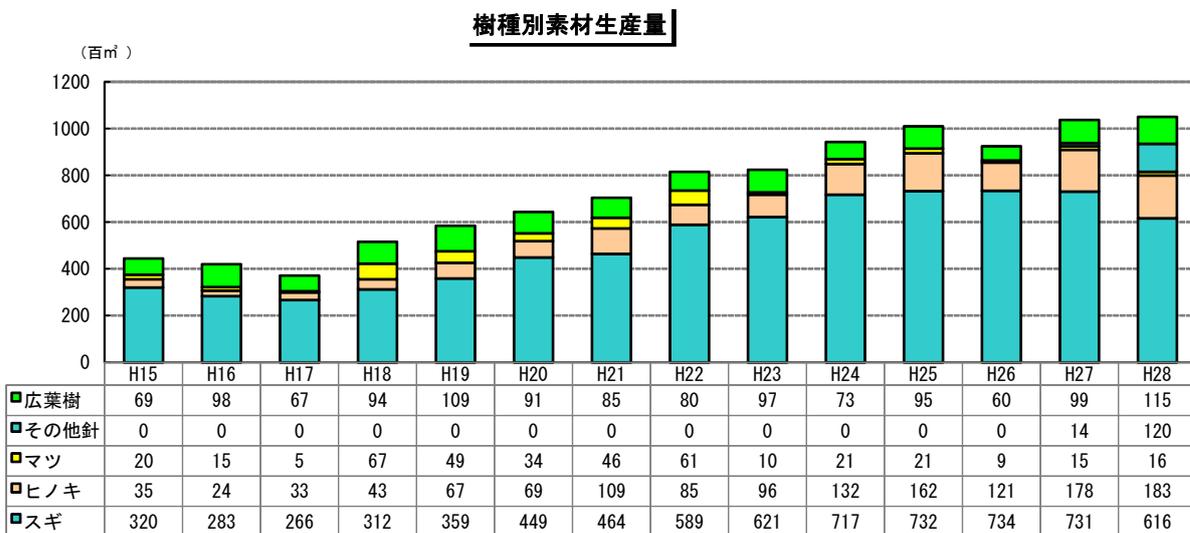
- 木材価格は最高値（昭和55年）の約1/3で推移している。
- 無節材などの役物の需要減少により、価格が低迷している。
- 近年、針葉樹合板の原材料が外材から国産材にシフトするなどの傾向が進み、価格に底打ち感も見られたが、直近では、一般材の供給増、建築様式の変化や人口減少等による住宅着工戸数減の影響等を受け安値低迷が続いている。



※出典：平成29年度鳥取県林業統計

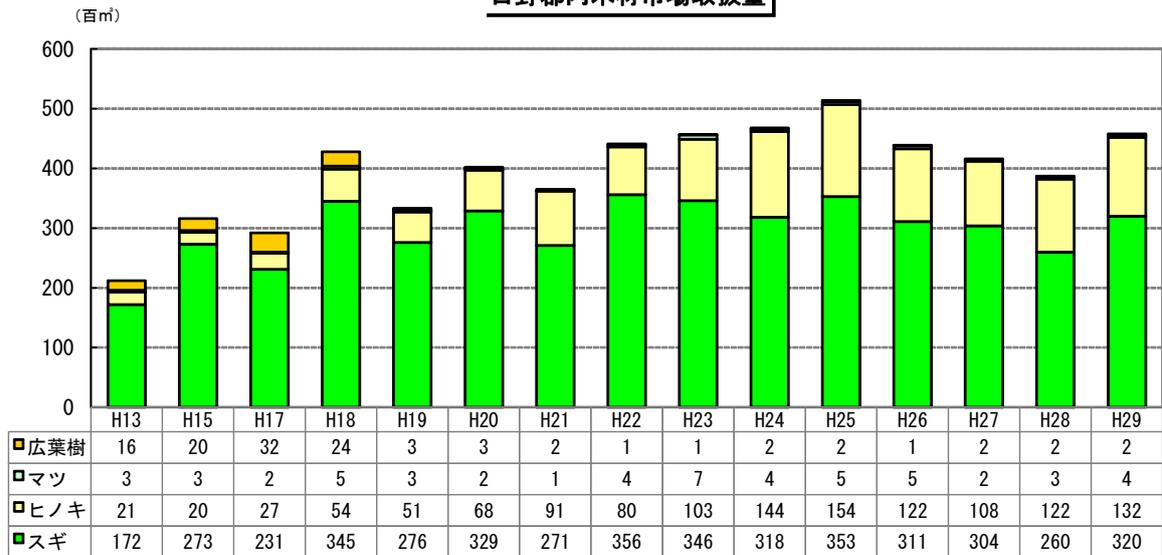
### (4)地域材の供給

- 長引く材価の低迷を受けて、主伐(皆伐)を控える傾向に変わりはなく、間伐材の生産が中心となっている。
- 日野郡の素材生産量は、「造林事業」を活用した間伐、「間伐材搬出等事業」への積極的な取組により、平成18年度頃から年々増加しており、平成25年度には10万m<sup>3</sup>を上回った。
- 日野郡では、(株)オロチ(LVL製造工場)への木材供給(定価格、安定出荷)など、市場を介さないで直接納入する取組が見られる。



※出典：平成29年度鳥取県林業統計

### 日野郡内木材市場取扱量



(注) 日野郡内の原木の流れ

※出典：日野振興局業務資料

- 米子木材市場生山支店の原木取扱量は、樹種別ではスギ69%、ヒノキ29%、広葉樹0%、マツ1%で、圧倒的にスギが多い。入荷先の83%(H29)が日野郡であることがその理由である。
- 出荷先(買い方)としては、西伯郡(鳥取CLT)など県内需要もあるが、その多くは岡山県、島根県、広島県等の県外となっている。合板用として境港市(日新)に出荷されている。
- この様な中で、平成12年から南部町で協同組合レングス(現(株)鳥取CLT)がスギの三層クロスパネルの生産を始め、平成20年からは日南町で(株)オロチによりLVLの生産が開始されたことにより、日野郡内で生産された木材が、県内で高次加工され、県外へ出荷される体制が整備された意義は非常に大きいものがある。

### (5)森林路網の整備

- 日野郡内では、路網整備の骨格となる森林基幹道3路線(宝仏山1号、宝仏山2号、窓山線)の開設を進めている。
- 「合板・製材生産性強化対策事業」(国庫)や「造林事業」(国庫、県も嵩上げを実施)等により、間伐など森林施業の推進や素材生産コストの低減に不可欠な作業路網の整備を進めている。

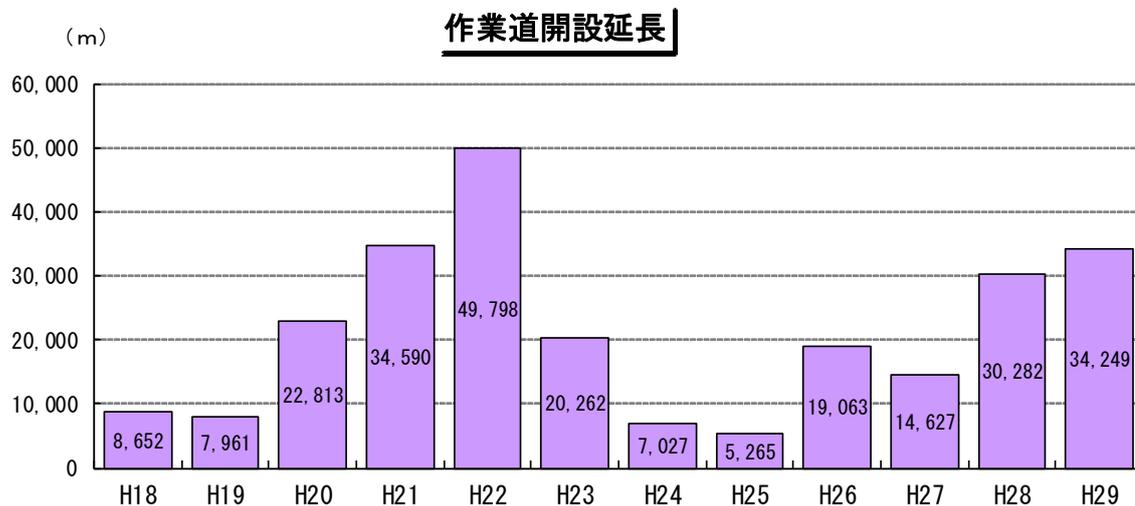
単位：m

路線名	位置	延長	事業費 (千円)	工期	開設済延長 (H30末)	開設計画 (H31以降)
森林基幹道 宝仏山1号	江府町俣野 ～武庫	6,900	2,322,365	H元～H38	4,756	2,144
森林基幹道 宝仏山2号	日野町金持	7,990	2,058,278	H元～H38	6,233	1,757
森林基幹道 窓山線	日南町新屋 ～上萩山	17,233	4,323,960	H8～H41	10,627	6,606

※出典：日野振興局業務資料

○森林作業道について、平成28年度から「鳥取県合板・製材生産性強化対策事業」を実施し、10/10助成により開設されている。開設に当たっては、鳥取式作業道を軸とした丈夫な道作りを推進している。

○また、幹線路網となる林業専用道（規格相当）の整備を推進しており、平成29年度には約1万3千メートルが開設されている。

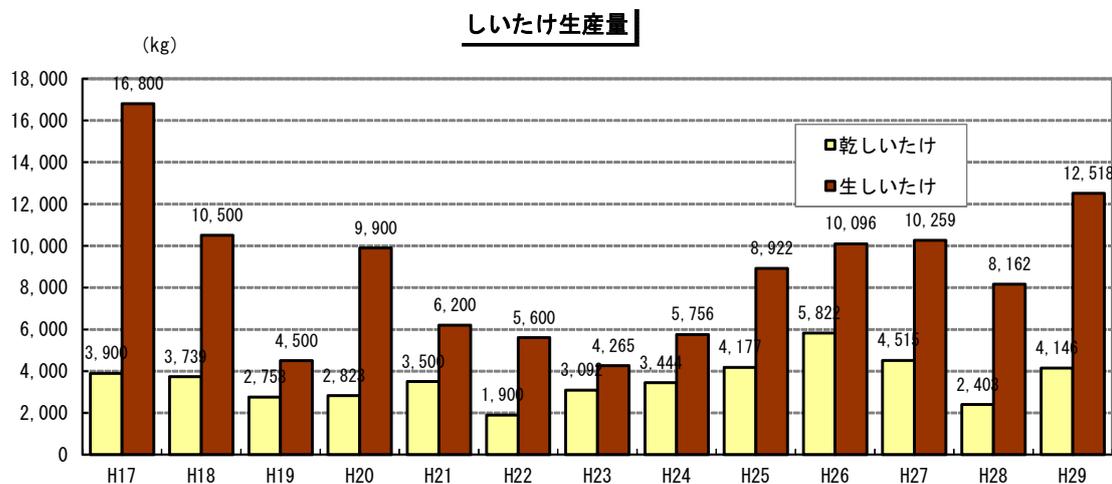


※出典：日野振興局業務資料

## (6)しいたけの生産

○乾しいたけ生産は、近年の自然健康食品の嗜好の高まりなどを受け、比較的高値で安定して推移していたが、東日本大震災による風評被害により価格が下落した。ここ数年、販売価格が持ち直しつつあるが、生産者の高齢化と後継者不足、原木入手の困難化などから、生産量は停滞傾向にある。

○生しいたけの生産量は、菌床栽培に企業が参入するなどの動きがあるものの、平成23年度までは減少傾向にあった。しかし、大口生産者の生産拡大、補助事業の導入により、平成24年度からは上向きに転じている。平成29年度からは鳥取茸王やとっとり115号の生産出荷取組をはじめている。



※出典：日野振興局業務資料

## 5 日野振興センター農林関係担当課 (平成31年3月現在)

